

明治期以降、日本の美術は急激な西洋化の波にさらされます。日本の洋画家たちは、西洋画の写実表現や遠近法などを取り入れ、独自の表現を求めて模索を続けました。このような状況下で、国が主催する文展が創設されます。本県の洋画家では、西都市出身の塩月桃甫が、大正5（1916）年に文展入選を果たしました。また、都城市を代表する山田新一は、大正14（1925）年に文展を前身とする帝展に初入選し、中央画壇で活躍しました。一方、伝統的な日本画の世界においても、西洋画の要素や特徴を取り入れた新しい「日本画」への取り組みが進みました。本県を代表する日本画家として、文展で受賞を重ねるなど日本画界をリードした都城市出身の山内多門、同じく都城出身で、大正4（1915）年の文展において初入選で褒状を受けた益田玉城が挙げられます。

ここでは、これら宮崎県を代表する画家たちの作品を中心に紹介するとともに、没後70年を迎えた塩月桃甫にスポットを当てた特集展示も行います。本県出身やゆかりの作家による多彩な作品をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	塩月 桃甫	1886~1954	自画像	1946-54（昭和21-29）	44.4×31.7	素描
2	塩月 桃甫	1886~1954	題不明	1921（大正10）	45.7×61.0	油彩
3	塩月 桃甫	1886~1954	タロコの男	1921（大正10）頃	35.5×20.5	素描
4	塩月 桃甫	1886~1954	ロボを吹く少女	1924（大正13）	60.6×45.0	油彩
5	塩月 桃甫	1886~1954	作品4（建功神社）	1942（昭和17）頃	29.6×37.8	水彩
6	塩月 桃甫	1886~1954	作品5（台湾の娘）	1942（昭和17）頃	51.0×34.2	水彩
7	塩月 桃甫	1886~1954	パイワンの女	1953（昭和28）	45.8×37.9	油彩
8	塩月 桃甫	1886~1954	花、アネモネ	1946（昭和21）	33.1×23.7	油彩
9	塩月 桃甫	1886~1954	舞子	1949（昭和24）	33.3×24.0	油彩
10	塩月 桃甫	1886~1954	魚(3)	1953（昭和28）	21.7×27.4	油彩
11	塩月 桃甫	1886~1954	黒猫と少女	1950（昭和25）頃	73.0×60.6	油彩
12	塩月 桃甫	1886~1954	裸婦	1953（昭和28）	72.8×60.4	油彩
13	山田 新一	1899~1991	シュザンヌ	1928（昭和3）	53.0×45.5	油彩
14	鱸 利彦	1894~1993	伊太利婦人像	1931（昭和6）	53.2×45.6	油彩
15	松本 周一	1928~1994	山里 2	1989（平成元）	130.2×162.0	油彩
16	道北 昭介	1930~1993	埋没の詩	1982（昭和57）	116.7×91.0	油彩
17	太佐 豊春	1921~2005	処刑の森	1968（昭和43）	109.2×79.0	水墨, インク
18	益田 玉城	1881~1955	千石三景	1939（昭和14）	右:131.5×23.0 中:131.8×23.0 左:131.8×23.0	日本画
19	山内 多門	1878~1932	山水図	1902（明治35）	123.4×50.6	日本画
20	江夏 英璋	1876~1946	題不明	不明	各175.2×379.2	日本画
21	山本 泰業	1888頃~1947	菊	不明	126.7×39.6	日本画